



DOKKYO

姫路獨協大学同窓会報

2001年1月1日

Vol.7



DOKKYO NOW ■ 姫路獨協大学 今昔物語

REPORT ■ 頑張っています! 姫路獨協大学同窓生

NEWS

- 「獨協学園史」「獨協学園史資料集成」発刊
- 中国研究会・大江君がスピーチコンテスト県大会優勝
- 念願の教師に…吉田宏伸さん

新企画

- 僕、私のママは卒業生だよ!

ごあいさつ



寒さもますます厳しい季節となってまいりましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。21世紀という新しい門出を迎え、私たち同窓会は母校の発展のため今まで以上に積極的に取り組んでいく決意を新たにしているところです。

さて、会報第7号の発刊にあたり、同窓会の現況報告と今後の予定をこの場をお借りして皆様にご報告いたします。

昨年度は、常設事務局開設のため人材派遣会社と週3日の事務員雇用契約を結ぶと共に、備品・パソコン・電話・インターネットを整備しました。これにより今まで以上に同窓会活動を活発に行うことが可能になったと思われまふ。それに加え、会員名簿のクリーニング・新規加入会員の登録など名簿管理も随時実施しています。

また、同窓会組織強化と支部開設のために、旧学友会役員、クラブ関係者に同窓会活動の参加を呼びかけましたが、これに関しては残念ながら具体的な成果は未だあがっていません。

本年度は名簿管理の徹底、ホームページの充実、年2回の会報の発行を柱に、各種OB団体の支援活動にも取り組んでいく予定です。また、同窓会の存在のアピール、活動エリアの拡大、大学および学生とのつながりの強化など、多くの課題にも対応していかねばなりません。

昨今は少子化も進み、大学を取り巻く環境も大変厳しい現状となっております。そんな今だからこそ、同窓生と大学、学生が手を取り合い、誰もが誇りの持てる姫路獨協大学を目指したいと考えています。

最後になりましたが、大学および、同窓生の益々のご発展をお祈り致します。今後とも変わらぬご支援を宜しくお願い致します。

同窓会会長 武本 錠治

■第4回総会のご報告

昨年10月22日に開いた第4回姫路獨協大学同窓会総会において承認されました会計について報告いたします。

◇会計報告

	科 目	第4期予算	第3期決算	
収 入	準会員会費収入	9,500,000	9,509,895	
	寄付金収入	200,000	210,000	
	預金利息収入	0	72,139	
	雑収入	112,640	0	
		[前期繰越金]	25,071,570	20,898,635
	合 計	34,884,210	30,690,669	

役員人事(敬称略)

会長=武本錠治 副会長=三笠哲也、森原紳太郎
監事=丸山兎路、村田泉 理事=笹間清豪

	科 目	第4期予算	第3期決算
支 出	広報関係費	3,580,000	2,368,352
	総会関係費	70,000	115,520
	事務局関係費	3,000,000	2,165,582
	大学学園関係費	0	961,350
	支部活動関係費	300,000	0
	その他	200,000	8,295
		[次期繰越金]	27,734,210
	合 計	34,884,210	30,690,669

※第3期は平成11年9月～平成12年8月、第4期は平成12年9月～平成13年8月。

●同窓会事務局からのお知らせ●

◆会員間の連絡取り次ぎサービスについて

「同窓生に連絡を取りたいのですが、連絡先を教えてくださいませんか?」という問い合わせが多数あります。当局では現在のところ直接電話による取り次ぎサービスは行っていませんので、取り次ぎを希望される場合にはお手数ですが往復ハガキの往信欄にあなたの住所・氏名・学部学科・卒業年度、相手方の氏名・学部学科を記入し、当局まで郵送してください。当局で返信欄に必要事項を記入して相手方に郵送します。そのうえで、相手方から連絡をとっていただくようになります。トラブルを防ぐためにも、会員相互のご協力をお願いいたします。

TEL&FAX 0792-23-9263 Eメール honbu@hdud.gr.jp

◆OB会の活動調査について

現在往復ハガキにてOB会の活動調査を実施しておりますが、活動の趣旨によっては1団体につき年間2万円程度の援助を行いますので、希望されるOB会は当局までご連絡ください。また、希望されない場合でも同窓会に対するご意見、近況報告などをご記入の上、ご返送ください。

◆アンケートはがきについて

同封のアンケートハガキにご回答の上、同窓会事務局までご返送ください。(FAXでも可)。今後の同窓会報編集の参考にさせていただきます。ご協力の程よろしくお祈りいたします。

◆第3期(平成11年9月～平成12年8月)の実施事業

- ・常設事務局を開設するため、平成11年12月より週3回事務員を雇用するとともに、備品、パソコン、電話、インターネット接続等を整備しました。
- ・事務局開設後は会員名簿のクリーニングと不明者の把握、新規加入会員の登録などの名簿管理を実施しました。現在会員の所在把握率は95%以上まで向上しました。
- ・ホームページの開設を行い、会員に母校の現状および会員の動向、便利情報などを発信することができました。

- ・会報製作は業者に委託し、内容を一新しました。
- ・同窓会組織強化と支部開設準備のために旧学友会役員、クラブ関係者に同窓会活動の参加の呼びかけを行いました。
- ・クラブ等のOB会活動に対する支援については、多数のOB会より支援依頼のお返事を頂きました。現在、具体的な申込審査手続きの準備を進めております。
- ・母校に対しては、獨協会シンポジウムへの資金援助、校歌CD製作費援助を行いました。

◆第4期(平成12年9月～平成13年8月)の事業計画案

〈事務局一般業務〉

引き続き人材派遣会社より事務員を雇用し、同窓会業務全般に携わっていただきます。また、同窓会業務規約、各種細則を定め、会則、規約、細則に則した業務運営を行います。

〈名簿管理〉

会員名簿は厳重に管理し、利用については同窓会および大学業務に厳しく限定します。具体的には同窓会報の発送業務、同窓会から会員への業務連絡、会員間連絡取次サービス、現役学生の就職活動支援、公の大学業務などです。

〈ホームページ〉

毎月更新できるように内容を充実させ、常に新しい情報の発信に努めます。アクセス件数の大幅増を目標とします。

〈会報〉

年2回(12月、7月)の発行予定で、内容もマンネリ化しないよう

に取り組みます。業者任せにせず、いろいろな考えを反映できるように、企画立案体制を見直します。

〈総会〉

会員に一人でもたくさん出席していただけるように、具体的対策を考えていきます。

〈学生支援〉

現役生の就職活動に同窓会名簿が活用できるよう、今期より大学と共同でこの問題に取り組んでいきます。

〈各種OB会団体支援〉

1団体につき、年2万円の活動支援を行います。会報、ホームページにそれら団体の活動を取り上げ、連携体制を強化します。

〈組織強化〉

引き続き同窓会スタッフの募集を積極的に行い、本部組織の強化に重点をおきます。併せて支部結成にも引き続き取り組んでいきます。

REPORT

会社訪問 頑張っています！ 姫路獨協大学同窓生



左から 福田薫さん (H7 法学部卒) 埴岡浩三さん (H10 経済情報学部卒)
井上恭子さん (H10 外国語学部卒) 土居政文さん (H12 経済情報学部卒)

白鷺ニット工業株式会社

〈本社〉 姫路市豊富町豊富2429 ☎0792・64・5251

昭和44年6月創業。営業内容は健康・機能肌着・婦人肌着・子供肌着・外衣の製造など。

マルイチ株式会社

〈本社〉 姫路市青山3丁目10番7号 ☎0792・67・2800

昭和52年10月創業。営業内容は建設用仮設資材、住宅用ピケ足場、ユニットハウス、事務用備品のリースなど。



前列左から 竹裏洋子さん (H12 経済情報学部卒) 吉田健次さん (H8 経済情報学部卒) 八木学さん (H8 経済情報学部卒) 怒和恵美子さん (H6 外国語学部卒)
後列左から 牛尾洋さん (H3 外国語学部卒) 藤保徹さん (H7 法学部卒) 高木克明さん (H9 法学部卒) 廣納大輔さん (H12 法学部卒)

姫路獨協大学今昔物語

昭和63年春、私たちの母校・姫路獨協大学は産声を上げました。それから10余年、バブル経済の肥大とその崩壊など、激しく時代が移り変わっていく中で、私たちの姫路獨協大学も大きな変貌を遂げました。今回は創立当時から教鞭を執る4人の先生方に、姫路獨協大学の今と昔を振り返っていただき、それにまつわる話をお聞きました。

池下 幹彦

外国語学部
助教授

昭和29年12月11日生まれ。一橋大卒。広島大学院卒。姫路獨協大学専任講師（昭和62年）同助教授（平成9年～）。

Q1 開学当時の学生にはまだ上級生がいなかったので、若かった私は先輩ぶっているところに連れて行きました。広島を自宅に20人位が泊りに来たこともありでしたね。学生も「いっちょ、やったるでえ」といった元気な子がクラスに必ず数名はいました。外国語学部の中に自分たちでタウン誌を発行していた子がいた位ですから。とにかくバイタリティー溢れる生徒が多かったのが印象に残っています。服装は今の学生と比べてかなり地味でしたね。

Q2 当時の学生と現在の学生を比較して、当時の学生はアナログ思考で現在の学生はデジタル思考だとよく言われます。言葉を変えれば、当時の学生に比べて現在の学生は飽きやすく、長続きしないということですね。ですから授業においても教員側が学生に好奇心を持続させるための努力をしないと多くの学生は集中力を維持することができません。そのために現在は授業で使用する教材の多面的な工夫も必要になってきています。実際に英語教材にビデオが付いていたり、細かい問題を扱っていたり…。

上寺 常和

体育・教職課程
教授

昭和23年11月21日生まれ。関西学院大卒。姫路獨協大学教職課程助教授（平成元年）体育・教職課程教授（平成12年～）。



Q1 教職課程がスタートした段階で、1期生はすでに3年生になっていましたので、教職課程を選択した学生は卒業までの2年間で必要なすべての単位を取得しなければなりません。当時の学生は貪欲だったので、資格を取るためには何でもやってやろうという意欲がありました。特に英語学科の生徒が熱心だったのが印象に残っています。その結果、2年間というハンディに関わらず、教員免許、学芸委員、学校図

QUESTION

Q1 創立当時の思い出 Q2 創立当時と現在の学生の違い
Q3 姫路獨協大学の現状 Q4 同窓生へのメッセージ

Q3 当時はクラスとかクラブ活動の関係でまとまっている学生が多かったんですが、現在は個人もしくは少数のグループで行動している学生が多いですね。あまり大きな所に所属したくないという傾向が強いです。どこの大学でも言えることなのでしょうけど、現在の学生はあまり元気がないです。授業やクラブ活動よりもアルバイトが中心の生活を送る学生が多いのが現状ですので、仕方のない部分は多少あるとは思いますが。

Q4 ある期間、私は皆さんと同じ時間と同じ空間を共に過ごしました。それは何げなく過ごした時間でしたが、何物にも替えることのできない貴重な時間でもありました。時間の経過とともに記憶は薄れていきますが、時に思い出しては懐かしさが込み上げてきます。同窓生の皆さんにとって姫路獨協大学は人との出会いの場所だったと思います。ここでいろんなことを得たり、いろんなことを失ったりしたと思いますが、大学の4年間を時々思い出して訪問してみてください。



書館司書教諭の3つの資格をすべて取得した学生もいましたよ。

Q2 当時の学生は放課後など時間の空いている時間にしょっちゅう研究室に来ていました。私的な話もしていたので楽しかったし、お互いに勉強になりましたね。現在の生徒も結構研究室に来ています。ただ、以前と比べて我々の指導に関して理解してもらえない点も出て来ました。授業中に平気で教室を出入りしたり、飲食をしながら授業を受ける学生がいたり、常識が常識でなくなることが目立ってきたように思います。しかし、中にはしっかり教員の指導方法を学んでいる学生や自分で資料を集めてくる学生もいますので、当時の学生に比べては優れている面もあります。

Q3 以前と比べて学内の課題がすぐに改善されるようになりましたね。学生に関してはジェネレーションギャップもあると思いますが、ここ最近の5年間、どんな学生が入学してくるのか全く予測がつかない状態です。それ以前の3～5年間は同じタイプの学生が入学していたので、指導案を立てやすかったのですが、ただ、現在の学生はドライですし、こちらが彼らが素直に聞く状況さえ作ってやれば必ず伸びると思います。自分からやろうという意欲のある学生も多いですし、人懐っこい学生も多いです（笑）。

Q4 困った時にはいつでも大学に帰ってきてほしいですね。苦しい時は次のチャンスだと思ってほしいです。逃げるのではなくていろんなアイデアを出してみてください。工夫することによって次に楽しいステップが待っていますから。うまくいっている時は別に帰って来なくてもいいですから（笑）。お互いに連絡を取り合うことができればいいですね。

和田 安夫

法学部
教授昭和25年3月13日生まれ。京大卒。
姫路獨協大学法学部講師(昭和62年)
同助教授(平成元年) 同教授(平成8
年〜)。平成10年から教学部長も兼務。

Q1 本学が創立して間もない5月、学会の発表で東京の上智大学に行きました。キャンパス内の木々は生い茂って青々としていたのですが、姫路に帰ってきてみると、まだ植木の枝がピンと張っていない。幹ばかりあるといったイメージで「まだやなあ、確かに新設校やなあ」と思ったことを覚えています(笑)。初年度だから僕だけではなく、どの教員も学生たちに積極的に話しかけていました。新設校ですし、当時は大学に対する世間の評価が定まっていないから、教員と学生がお互いにいろんな可能性を追及していましたね。

Q2 創立時の学生は一言で言うと活きが良かったですね(笑)。しょっちゅう研究室にもやって来るし、資格や就職に関してもどの資格を取得したいのか、どんな職業に就きたいのか、そのためにはどうしたらいいのか、など学生の方から積極的に質問してきましたね。集中力があつたのか、当時の学生は結構自分の希望した職業に就いている人が多いですね。極端に言えば、大学や親が全部お膳立てしてくれるんだというイメージ。今開講している地方公務員講座にしても、講座に出て、座っているだけで公務員になれると思っている学生が多いです。だから「いつまでも自分の世話をしてくれる人間がいるとは限らない。

自分1人の力でやらなければならない時期が必ずやって来る。それが今だよ」とよく学生に話をしています。

Q3 学生がおとなし過ぎるんじゃないかと思います。もっと好奇心を持ってもらいたいですね。新聞記事を読む時でも、どうせ世の中はそんなもんだと思って読むのではなく、なぜそんなことするんだと思って読んでもらえば世の中を知る大きなヒントなるんですから。授業の出席率は比較的高いです。教学部長としては嬉しいことですが、大学生なんだから他に何かすることがあるように思うけどなあと思うこともあります。大きな声では言えませんが…(笑)。もちろん、学生には授業には必ず出席しなさいと言っていますが、メリハリをつけてやってくれているといいわけです。

Q4 今、真面目な学生が多いからこそ、学生にとって年齢的にお兄さん、お姉さんにあたる先輩たちが世間を見て、学生時代の少し先の世界を話してあげることによって、学生が在学中に何をしたらよいかかわかると思います。今後、社会に出たときのヒントを学生に話しに来てほしいと思います。



久保 成史

経済情報学部
教授

昭和28年5月18日生まれ。成城大卒。専修大大学院卒。姫路獨協大学経済情報学部講師(平成2年) 同助教授(平成5年) 同教授(平成11年〜)。平成11年から入試・就職部長も兼務。



Q1 1期生の事が一番印象に残っています。今の学生と比べると1期生はかなり活発でした。当時はクラブ活動やゼミ活動など、とにかく自分たちで何か新しいもの作ってやろうという意識が学生の間で強かったですね。授業を始める前でも、夏休みのゼミ合宿を計画して、自分たちがやりたい事を黒板に書いたり…、当時は学生にのせられて1泊や2泊の合宿をよく行いました。今は学生が提案するといったことはほとんどないですね。どこの大学でも同じなんではないでしょうか。

Q2 当時の学生は何事に関しても積極的でした。現在でもゼミの一環で学生たちとバスに乗って工場見学や企業見学に行くのですが、当時のゼミ生はバスのチャーターから教務課に提出する書類の作成、見学先の下見、手続きなど、全部自分たちで率先して行っていました。当時の教務課の課長が「学生は凄いですね」とびっくりしていた位ですから。それに比べて現在の学生の多くは、ゼミはあくまでも通常の講義科目の一つという考え方をしているんじゃないですか。当時はゼミを欠席するなんて考えられなかったんですが…。しかし、今の学生は善しにつけ悪しきにつけ非常に要領がいい。やれといわれても自分からはやらないんだけど、レポートの書き方やゼミの発表の仕方など、こちらが先に手本を見せてあげると、予想以上のものを仕上げる力があります。

Q3 今の時代ですからどこの大学も同じなんでしょうけど、就職に関する問題が大きいのではないでしょうか、活気がないように思います。少子化が進み、学生の学力が全体的に低下しているのも事実です。高校時代に勉強をあまりして来なかった学生をいかにして大学の授業に興味をもたせるか、どの教員も頭を悩ませています。学生のレベルに応じて授業を細分化させることを現在検討しています。

Q4 私もそうですが、社会に出れば母校の事を思う気持ちがどうしても薄れてしまうように思います。50歳を過ぎて、ある程度自分の人生が見えてきてはじめて姫路獨協大学卒業生としての意識が生まれて来るのではないのでしょうか。就職に関しては後輩を自分が勤務する企業に引っ張ることは非常に難しいと思いますが、後輩が就職先で先輩の活躍を耳にすることが、後輩たちに大きな勇気を与え、母校に対する間接的な貢献になるのではないかと思います。同窓生の皆さん頑張ってください。

インタビュー後記

創立(新設)当時の印象や苦労話などエピソードを交えてざっくばらんにインタビューすることができました。表現は違えど、その一言一言から同窓生、在校生に対する愛情がこちらまでひしひしと伝わってきました。在校生に対しては少々厳しい指摘もありましたが、それだけ彼らに対する

今後に寄せる期待が大きいからでしょう。

同窓生の皆さんもぜひ一度、先生方の研究室に足を運んでみてください。きっと学生時代とは違う視点で“人生の講義”を受けることができるはずです。先生方も楽しみにされています。

●「獨協学園史」「獨協学園史資料集成」発刊

この度、獨協学園120年の歴史を綴った「獨協学園史」および「獨協学園史資料集成」が発刊されました。この2冊の本は学術的評価が高く、獨協の名称の所以となっている獨逸學協会の設立から始まる獨協教育の集大成とも言えます。価格は学園史、資料集成ともに1冊3000円（1セット5000円）。問い合わせは獨協学園本部事務局総務部（☎0489・46・1631）まで。



●中国語スピーチコンテスト兵庫県大会優勝



昨年10月に開かれた「全日本中国語スピーチコンテスト兵庫県大会」で中国研究会の大江友孝君（中・3）がスピーチA部門（留学経験1年未満）で見事優勝しました。子供の頃から中国の思想に興味があったという大江君は「お茶の妙」と題し、自身が今年8月に訪れた中国の茶畑やお茶の博物館でのエピソードを交え、精神の安定を得られるという中国茶の効能をアピールしました。「練習当初は中国語独特の発音に苦労しましたが、先生に褒めて

頂けるようになり大きな自信になりました。今まで心配をかけてきた両親のためにも頑張りたいです」と語る大江君。スピーチB部門の森祐美子さん（中・4）とともに今年1月28日（日）、東京・飯田橋の日中友好会館で行われる全国大会に出場します。東京にお住まいの方はぜひ応援に行ってください。

●子供の頃からの夢を現実に! 中学校社会科教諭・吉田宏伸さん

平成3年に法学部法律学科を卒業した吉田宏伸さん（32）は、姫路市立朝日中学校の社会科教諭です。吉田さんにとって教職は中学教師だった父親の影響もあり、子供の頃から憧れの職業だったそうです。当然、大学入学後は迷わず教職課程を選択しましたが、バレーボール部に所属して朝から晩まで部活動に没頭した結果、残念ながら在学中に教員採用試験に合格することはできませんでした。しかし、教師になりたいという気持ちは半端ではなかったという吉田さんは大学卒業後、臨時助教諭として中学校に5年間勤務。その後、大阪電気通信大学2部に入学し、技術科目の教員資格を取得。養護学校で技術教師として3年間教鞭を執った後、平成10年に念願の社会科教諭として朝日中学校に着任しました。「教師は人間を教える仕事です。相手には心があるので自分に少しでも甘い考えがあると勤まりません」と語る吉田さん。生徒に心と体で体当たりできる教師を目指して頑張っています。



●国際文化コミュニケーション専攻が開設

外国語学部は2001年度から従来の外国語習得を重視した教育課程に加えて、外国語習得と同時に国際文化、環境文化、情報文化について考える、国際文化コミュニケーション専攻を新たに開設します。この国際文化コミュニケーション専攻は国際化、環境、情報という21世紀社会のキーワードとなるべき事柄についての専門的な知識を学ぶことが目的の教育課程です。国際文化コミュニケーションコース、環境文化コミュニケーションコース、情報文化コミュニケーションコースの3つのコースの中から2年次に一括募集で希望のコースを選択。途中変更や入学後、学科に転学科することが可能です。また、外国語は英語、ドイツ語、中国語のうち1つを専攻。実用語学習得のための授業のみが必修なので、他学科に比べて語学履修単位が約半分に軽減され、1つの語学習得に専念することができます。

クラブ訪問

国際交流倶楽部同好会

身ぶり手ぶりを交えてベトナムの人たちとコミュニケーションを図ろうと、週2回、姫路市内の公民館でベトナム語の辞書を片手に日本語を教えています。「相手に伝えたいことが伝わらないもどかしさを感じることがありますが、会話の中からベトナムの文化や言語を学ぶこともあります」と主将の高本福子さん（外国語学部日本語学科3年生）。

日本語の指導以外にも姫路市の国際交流イベントにも参加しているので留学生と知り合う機会が多く、友達の輪が広がるのがこのクラブの大きな魅力なのだそうです。



●「姫路獨協大学播磨会」入会のご案内

「姫路獨協大学播磨会」では来年度の会員を募集しています。入会いただくと①講演会・市民教養講座・播磨学講座等、播磨会の各種行事案内②本学が開催する各種行事案内③一部講座の会費・入会金免除④播磨会関連事業の優先参加権の特典一を受けられます。年会費は法人会費が1口30000円、個人会費が1口3000円。問い合わせは事務局（☎0792・88・5150）まで。

●就職課からのお願い

就職先が変わった方や卒業して新たに就職した方は就職課までご連絡下さい。皆様のご協力、よろしく申し上げます。

TEL/0792・23・6507

FAX/0792・23・9152

Eメール syushoku@himeji-du.ac.jp

■ 訃 報 ■

西川知一・元姫路獨協大学学長（埼玉県富士見市勝瀬3369-II-602）が平成12年12月12日午後0時25分ごろ、永眠されました。

心から哀悼の意を表し、ここに謹んでお知らせいたします。

僕、私のママは卒業生だよ！

このコーナーに掲載を希望される卒業生は同窓会事務局までご連絡下さい。



ひろた あやか
廣田 綾香ちゃん
(2才9カ月)

「父親が“あやか”という響きが気に入ったので名付けました。人見知りか激しいものの、よく笑い、よく歌う元気な娘です。怒ったり、笑ったりと忙しいですが、2才なりの行動や考え方に毎日が新しい発見ばかり。将来は人の痛みがわかり、物事の善し悪しを自分で判断し、行動できる人になってほしいです」

廣田（旧姓・今嶋）一恵さん（平成4年外国語学部ドイツ語学科卒）

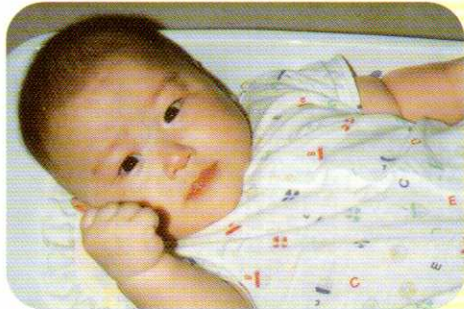


ほんだ ゆうき
本田 悠希ちゃん
(3カ月)

「何事にも“ゆうき”を持って行動してほしいと思って名付けました。表情が豊かな元気な子で最近、私の言うことに反応するようになってきました。子供中心の時間が多いため、今は自分の事が後回しになっています。睡眠が十分に取れないのが少し辛いかな？ 将来は元気で、人を思いやる心のある人になってほしいです」

本田（旧姓・山田）麻樹さん（平成9年経済情報学部経済情報学科卒）

おなか まな
尾仲 眞菜ちゃん
(8カ月)



「“菜”という字は菜の花がきれいに咲いている頃という意味が含まれています。よく笑う子で笑顔がかわいい。色白なところは私似かな？ すくすく成長していて、お座りもできるし、立たせてやるとつぼって立っています。今は特に音が出るものに興味を持っている様子。将来は明るく、優しい、思いやりのある人になってほしいです」

尾仲（旧姓・井上）智恵さん（平成3年外国語学部日本語学科卒）

たかはし ななみ
高橋 七海ちゃん
(9カ月)

「7つの海のように、広く美しい心の人間に成長してほしいという願いを込めて名付けました。今まで大した病気もせず、元気な子です。今、人見知りかピークの時期で、知らないおばさんとかに声をかけられたりすると大声で泣き出してしまい、困ってしまうことも…。健康であることに常に感謝して、精神的にも強く成長してほしいです」

高橋（旧姓・仲野）靖子さん（平成7年外国語学部日本語学科卒）



盛況に終わった20世紀最後の

志湧祭

去る10月20日(金)から22日(日)までの3日間、恒例の「志湧祭」がSOULをテーマに本学にて開かれました。初日はあいにくの雨模様でしたが、2日目と最終日は好天に恵まれ、学生、同窓生、一般市民など大勢の人々にぎわいました。



多くの観客を前に野外ステージでは様々なイベントが催されていた

▶学生たちの「一生懸命な味」は今も変わらない



誰もが聞き入ったアコースティック部のライブ演奏